

昨年度までは、各大学を中心に「オリオン交流会」を開催してきましたが、今年度は、地域の方々に知ってもらおうと「各市民センター」で開催することになりました。

その第1回目を、5月16日に、「則松市民センター」で開催し、約20名の留学生と大学生、地域の方など、40名を超える参加がありました。

地域の方が作られた手料理を食べながら、楽しく団欒し交流を行ないました。

次回は、7月21日(水)に「折尾東市民センター」、10月に「医生ヶ丘市民センター」での開催を予定しています。地域を越え、どなたでも参加できますので、是非、ご参加ください。

折尾駅周辺は、戦火を免れ、明治・大正時代の歴史的遺産が多く残ります。

折尾を流れる『堀川運河』は、183年間もの長い年月をかけて完成し、遠賀川から響灘や江川を通り洞海湾の若松までの輸送は、3日～6日間で運べるようになりました。

筑豊本線と鹿児島本線が『立体交差(日本最古)』する折尾駅は、東西南北からの人や物資が交流する場となり、「遠賀の都」として繁栄しました。

筑豊の優良な石炭を、利便性よく堀川運河と鉄道で運べるのがきっかけで1901年(明治34年)に「官営八幡製鐵所」が創業し、『鉄は国家なり』といわれるように、日本の発展の礎となったことは折尾の誇りです。また、堀川と鉄道が隣接し、「水運から陸運への変遷」をうかがい知ることできます。

西鉄電車高架橋(折尾駅側3連のトンネル) 平成22年度取壊し決定!!

西鉄電車も、黒崎方面から折尾駅前に、電車を乗り入れました。高架橋は赤煉瓦で作られ、福北ゆたか線の黒崎側に3連、折尾駅側に6連ありましたが、オリオンプラザなどができる際の、駅前広場の拡張工事で、折尾駅側の3連は取壊されました。現存する残りの3連の内の2つは飲食街のビルで隠れて見えませんが、1つは連絡通路として利用されています。

黒崎側の3連トンネルの道路と交わるトンネルは、高架橋に対して道路が斜めに交差するため、『ねじりまんぼ(まんぼ:トンネルの意味)』という特殊なトンネル工法で、この技法は、もう日本で作れる人がいません。日本に27ヶ所しかなく、日本最大級で、普通のトンネルと隣接しているのは、唯一ここだけです。現在、ねじりまんぼのある3連トンネルは残るようになっていますが、折尾駅側の3連は飲食街のビルと共に、平成22年度中に取壊されるようになりました。

先人は、折尾駅が折尾のシンボルになるようにと、通りの中央に作りました。駅前広場の工事に入るまでの間だけでも、6連トンネルと共に、折尾駅の姿を見たいものです。

